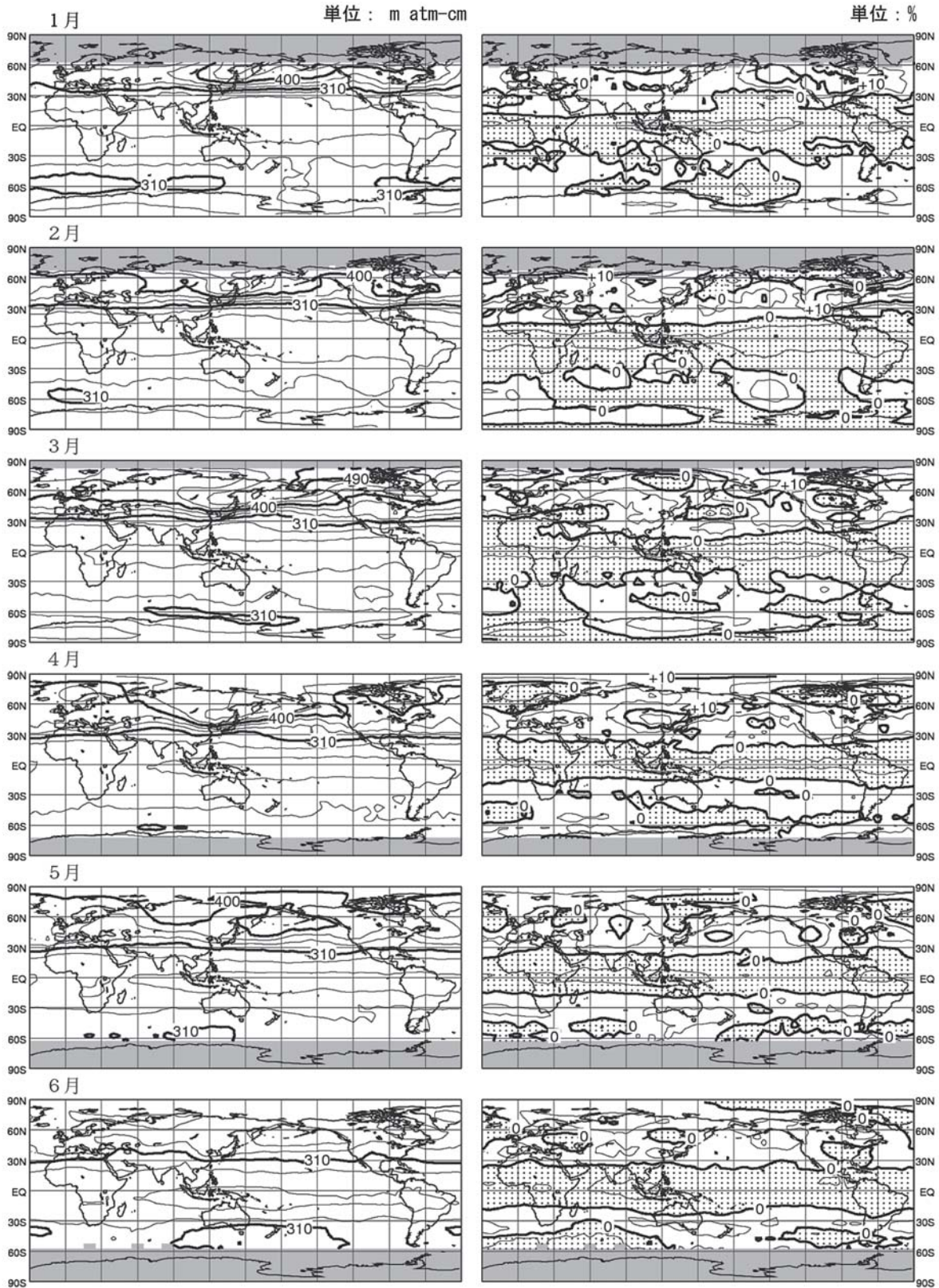


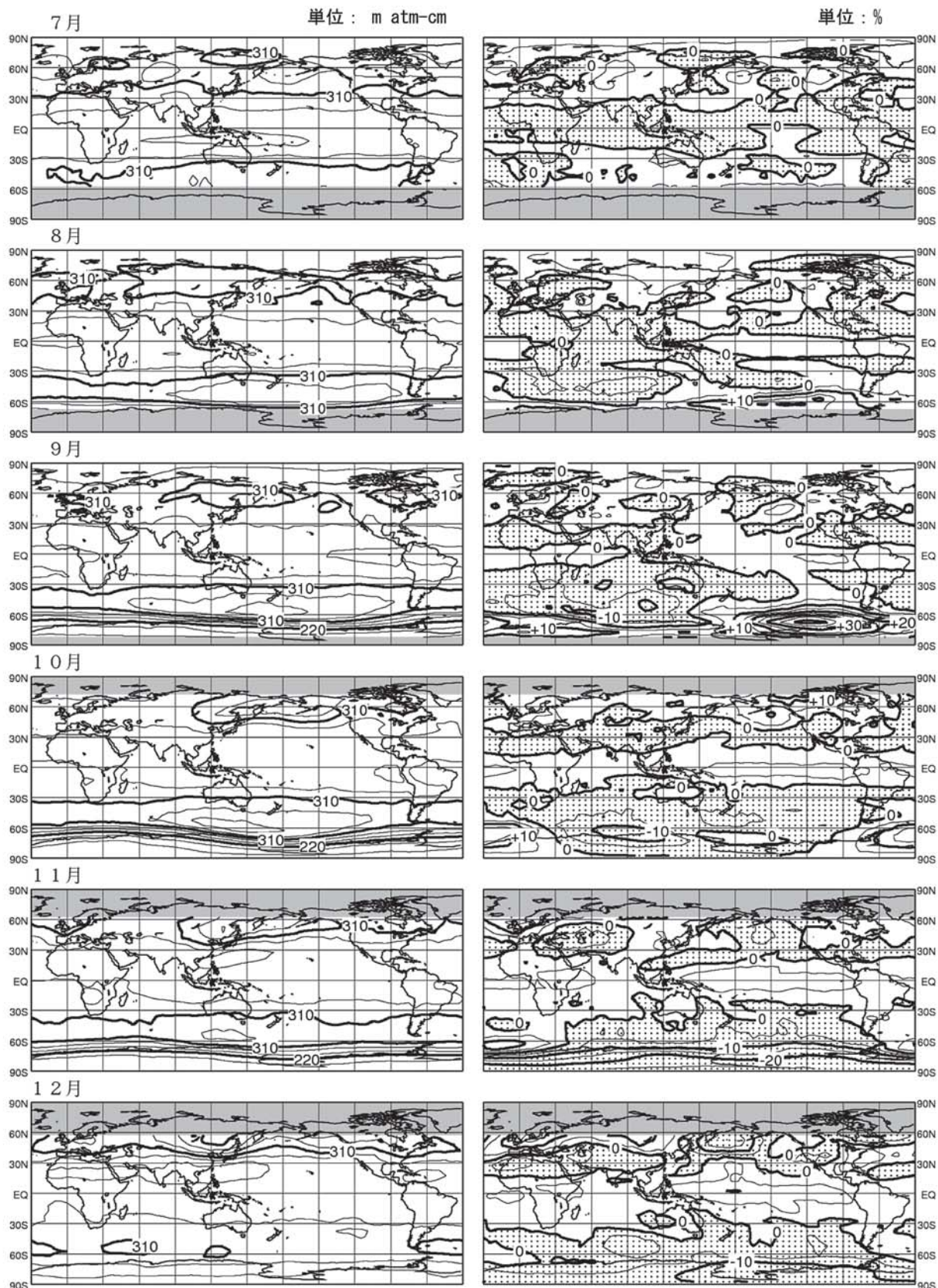
資料

資料 1 世界の月平均オゾン全量・偏差分布図 (2010年)



資料1(1)：世界の月平均オゾン全量・偏差分布図 (2010年1～6月)

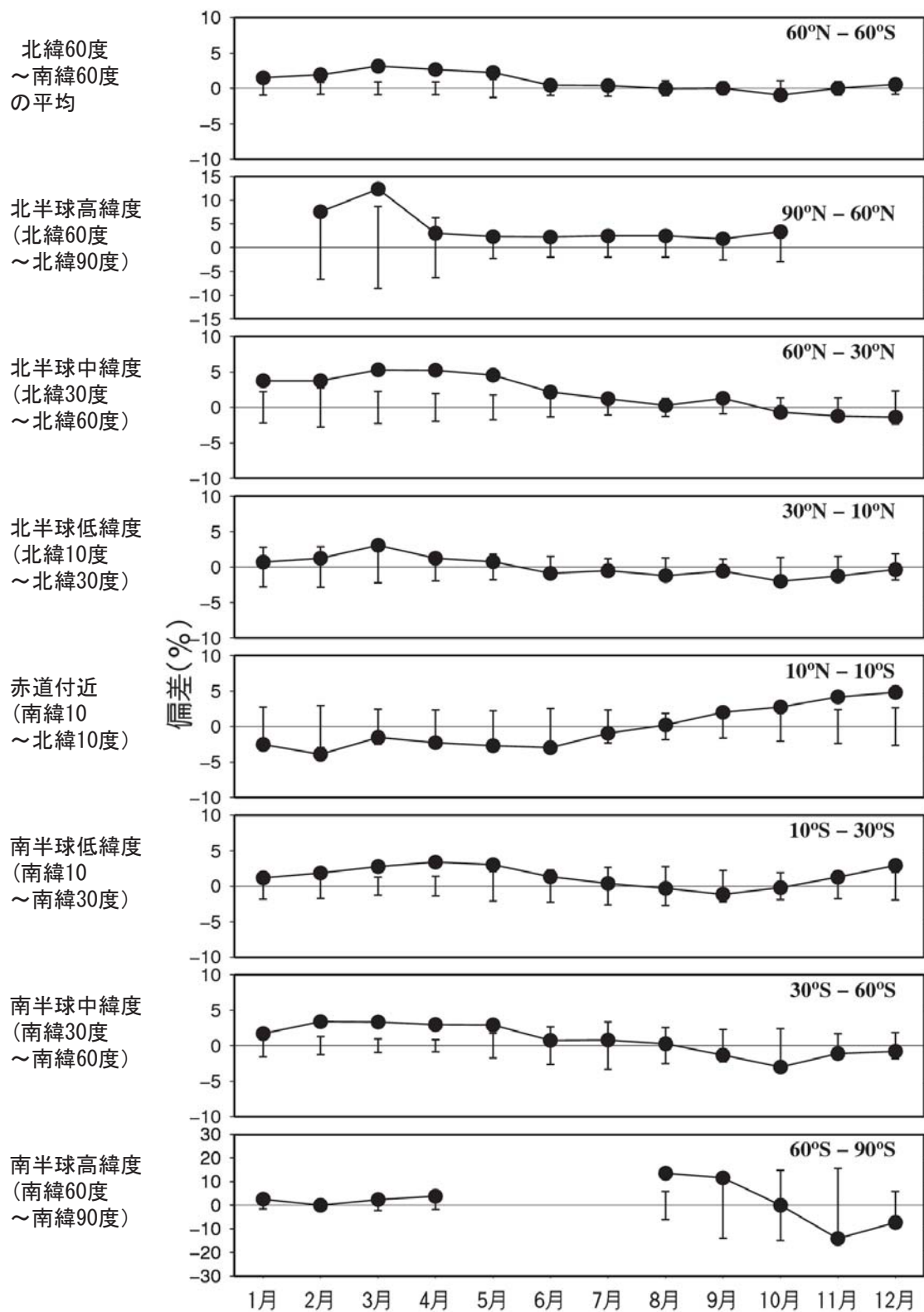
等値線間隔は、月平均オゾン全量 (左列) については30m atm-cm、偏差 (右列) については5%。陰影部は太陽高度角の関係で観測できない領域。点域は参照値より少ない領域。NASA提供の衛星データをもとに気象庁で作成。比較の基準である参照値は1997～2006年の月別累年平均値。



資料1(2) : 世界の月平均オゾン全量・偏差分布図 (2010年7~12月)

等値線間隔は、月平均オゾン全量 (左列) については 30m atm-cm 、偏差 (%) (右列) については 5% 。陰影部は太陽高度角の関係で観測できない領域。点域は参照値より少ない領域。NASA提供の衛星データをもとに気象庁で作成。比較の基準である参照値は1997~2006年の月別累年平均値。

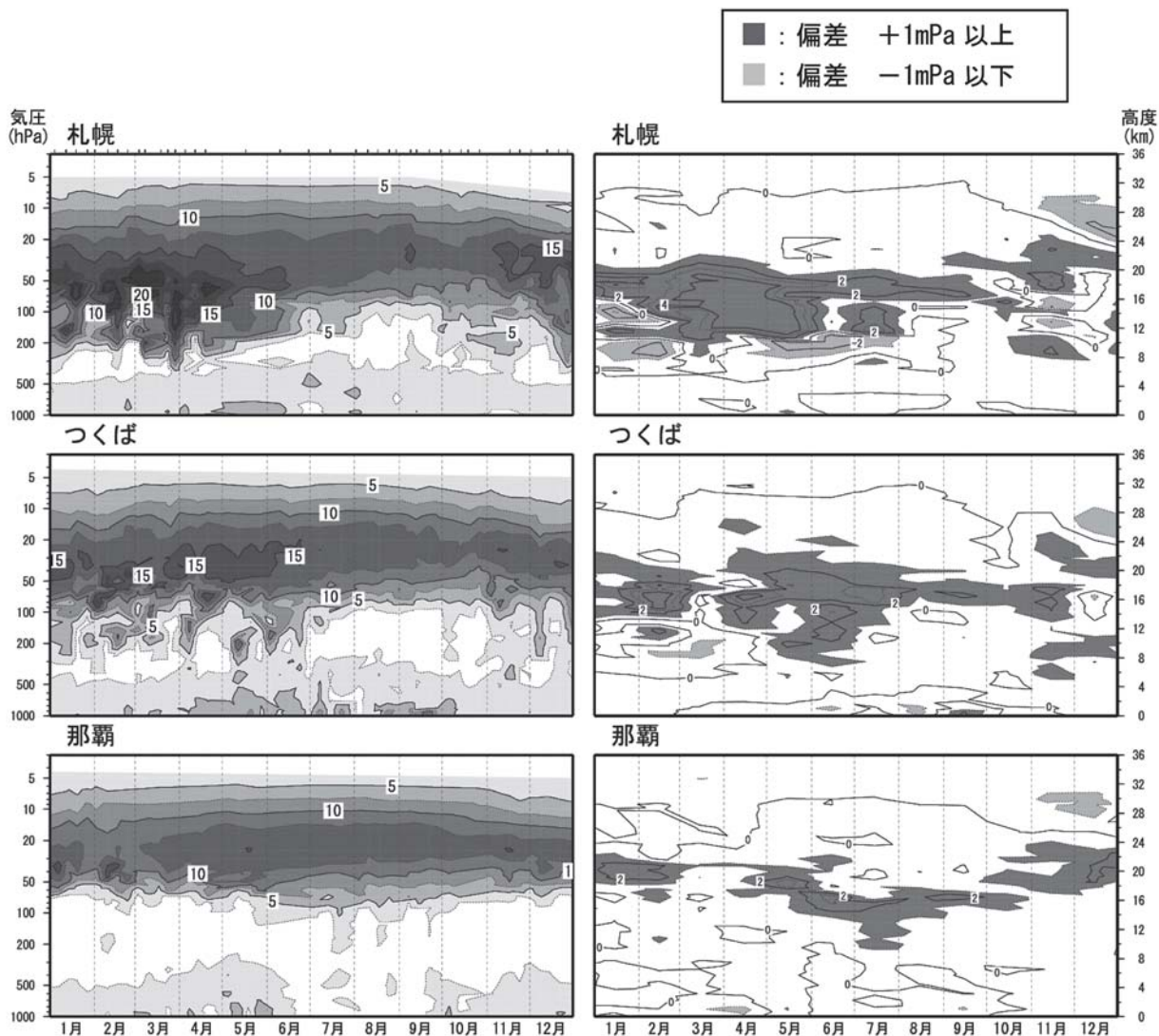
資料2 緯度帯別のオゾン全量月平均値偏差 (2010年)



資料2：緯度帯別のオゾン全量月平均値偏差 (2010年)

比較の基準である参照値は1997～2006年の平均値。縦線は参照値の標準偏差。北緯60度以北の1月と11、12月および南緯60度以南の5～7月は、太陽高度角の関係で観測できないため示していない。NASA提供の衛星データから作成。

資料3 国内3地点のオゾン分圧・偏差の高度分布（2010年）

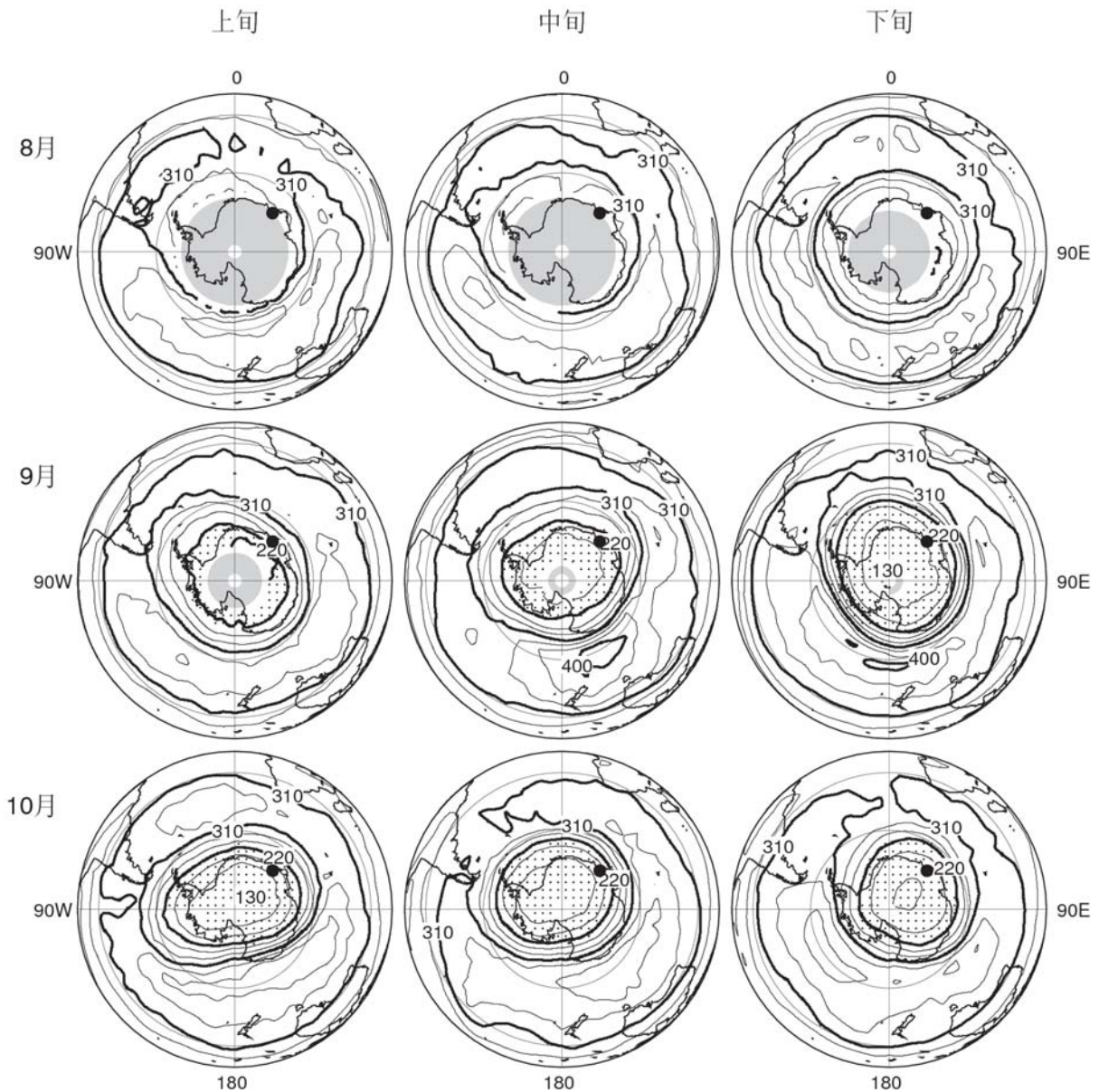


資料3：国内3地点のオゾン分圧・偏差の高度分布（2010年）

上から札幌、つくば、那覇。オゾン分圧図（左）は個々の観測値を用い、偏差図（右）は月平均偏差図から作成。等値線間隔は、オゾン分圧は2.5mPa、偏差は1.0mPa。比較の基準となる参照値は、1994～2008年の累年平均値。

資料4 南半球旬平均オゾン全量分布図（2010年8～12月）

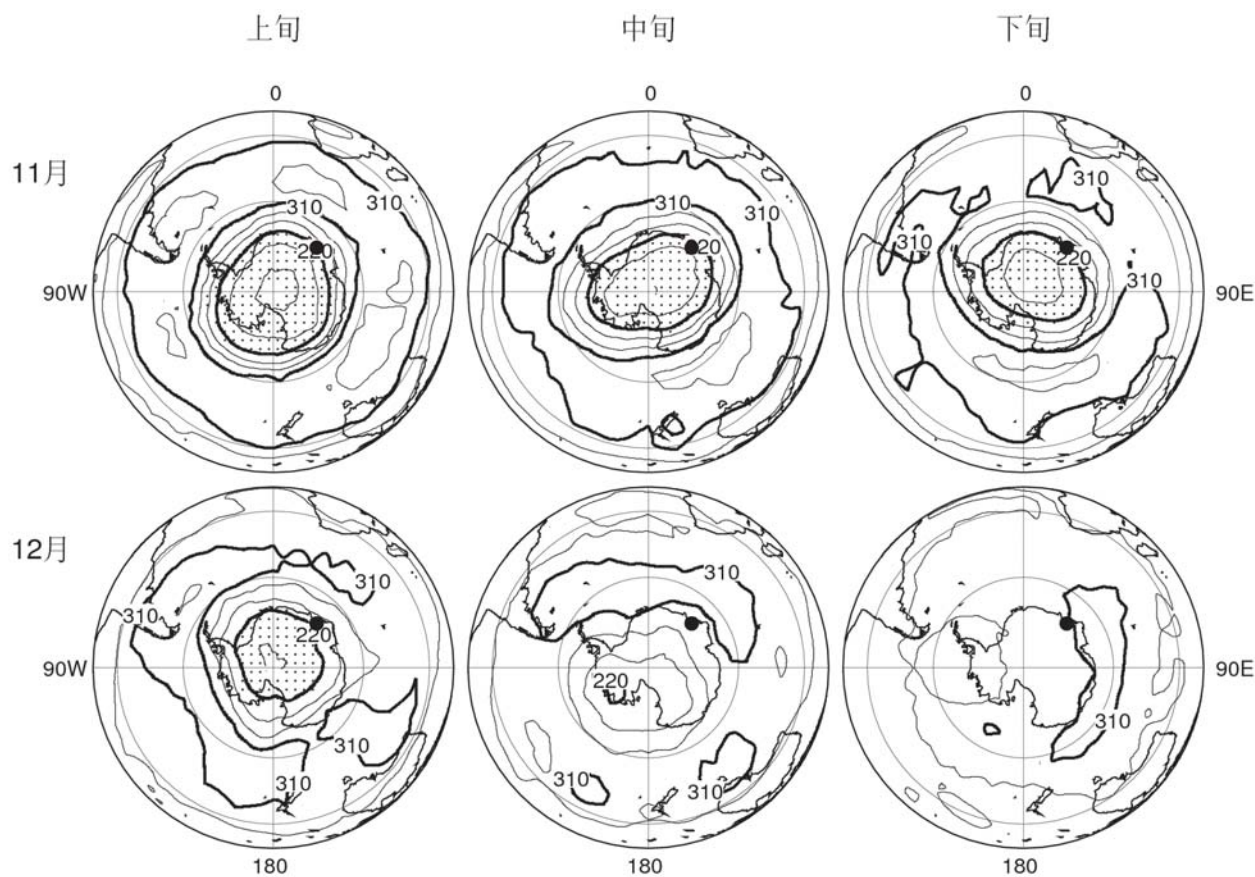
単位：m atm-cm



資料4(1)：南半球旬平均オゾン全量分布図（2010年8～10月）

上段から8月、9月、10月の旬平均値。左列は上旬、中列は中旬、右列は下旬。点域は220m atm-cm以下の領域。南極点を中心とする陰影部は太陽高度角の関係で観測できない領域。等値線間隔は30m atm-cm。NASA提供の衛星データをもとに気象庁で作成。なお、観測には太陽光を用いることから、極夜のため観測データが取得できない領域がありオゾンホールを目安となる220m atm-cmを下回る場合でも、図に表現されない場合がある。●印は南極昭和基地。

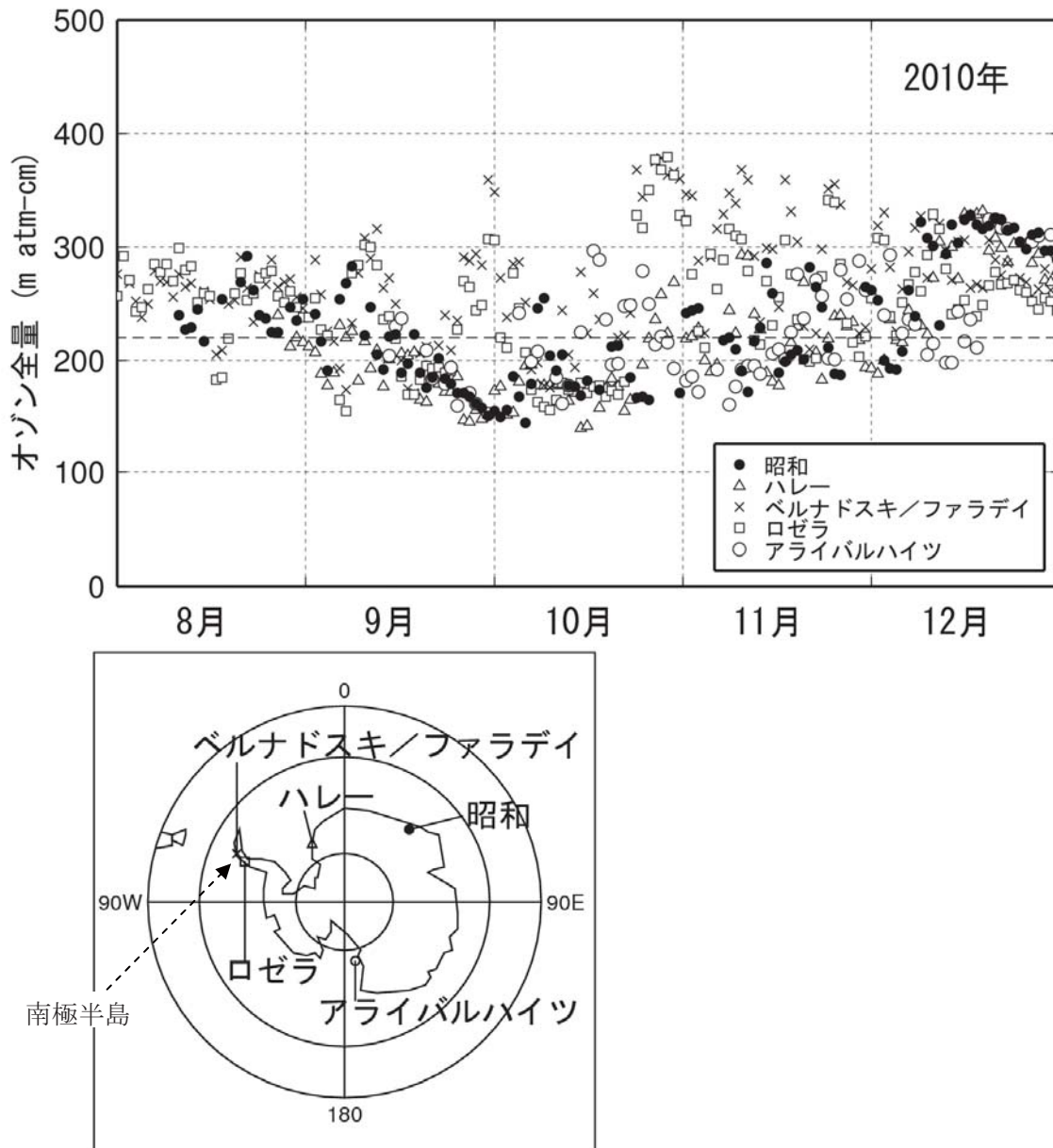
単位：m atm-cm



資料4(2)：南半球旬平均オゾン全量分布図（2010年11～12月）

上段から11月、12月の旬平均値。左列は上旬、中列は中旬、右列は下旬。点域は220m atm-cm以下の領域。等値線間隔は30m atm-cm。NASA提供の衛星データをもとに気象庁で作成。●印は南極昭和基地。

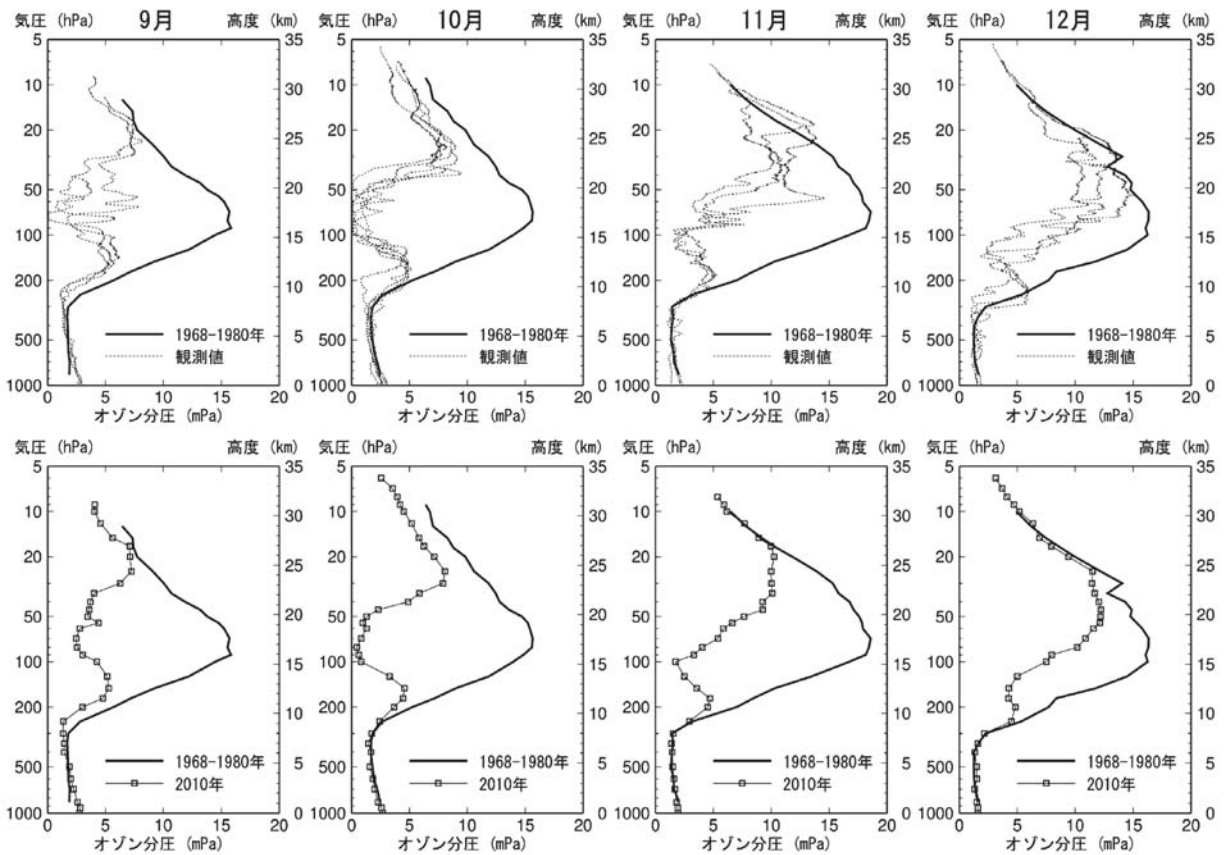
資料5 南極各国基地におけるオゾン全量 (2010年)



資料5：南極各国基地におけるオゾン全量 (2010年)

昭和基地 (●印)、ハレー (△印)、ベルナドスキ/ファラデイ (×印)、ロゼラ (□印) およびアライバルハイツ (○印) における2010年8~12月のオゾン全量。ハレー、ベルナドスキ/ファラデイ、ロゼラの観測値は英国南極研究所提供。アライバルハイツの観測値はニュージーランド水・大気研究所提供。オゾンホールを目安である220 m atm-cmを破線で示した。

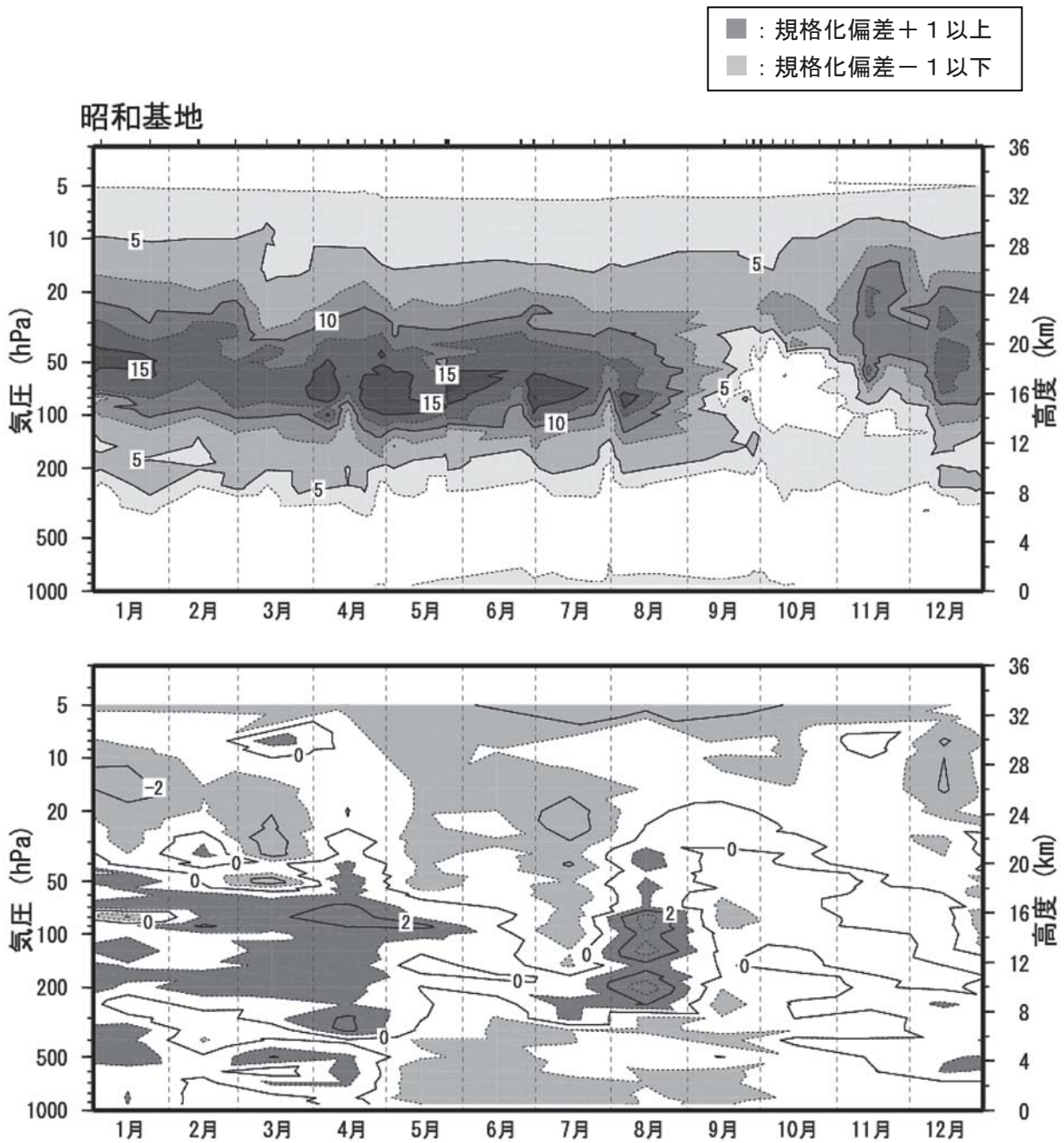
資料6 南極昭和基地における月別オゾン分圧高度分布（2010年9～12月）



資料6：南極昭和基地における月別オゾン分圧高度分布（2010年9～12月）

上段：太実線はオゾンホールが出現する以前（1968～1980年）の平均オゾン分圧高度分布。細点線は2010年の個々の観測結果。下段：太実線は上段に同じ。-□-は2010年の月平均オゾン分圧高度分布。南極昭和基地のオゾンゾンデ観測結果より作成。

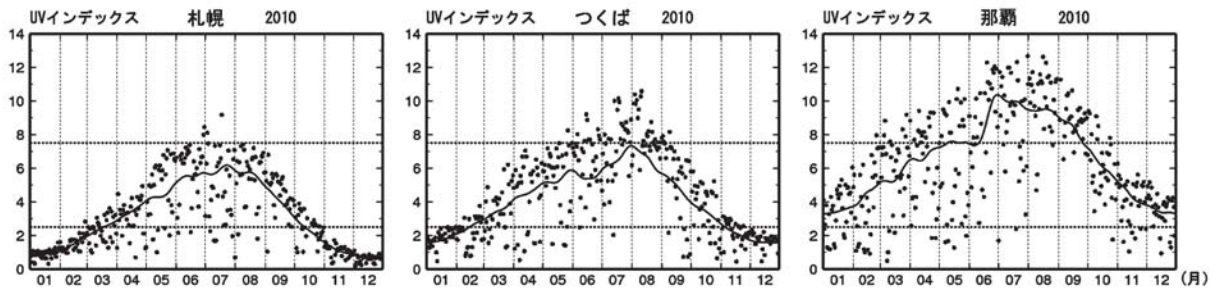
資料7 南極昭和基地のオゾン分圧と規格化偏差の高度分布（2010年）



資料7：南極昭和基地のオゾン分圧（上）とその規格化偏差（下）の高度分布（2010年1月～12月）

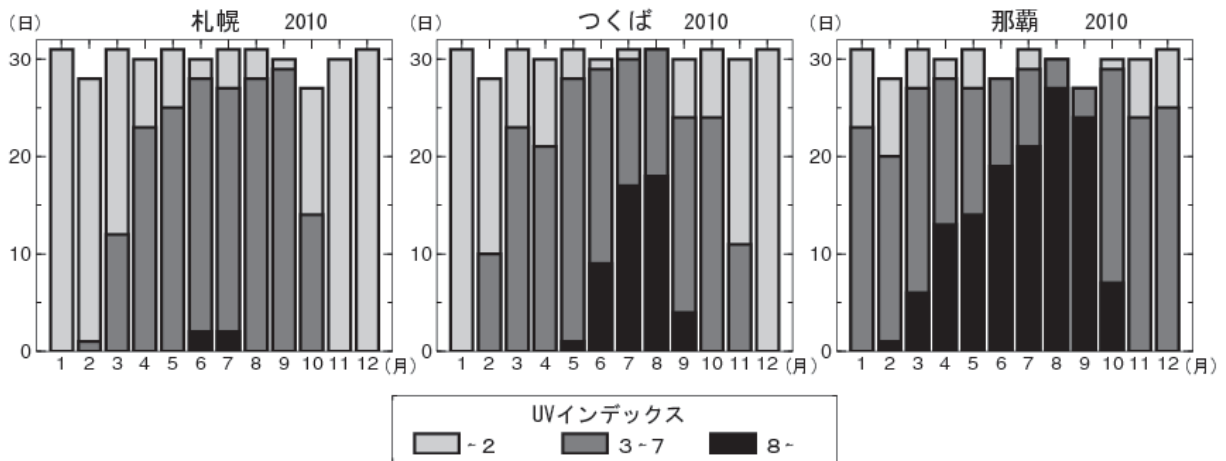
等値線間隔は2.5mPa（上図）と1.0（下図）。規格化偏差は月平均値の参照値からの偏差を標準偏差で割った値。参照値は1994～2008年の平均値。標準偏差も同期間で作成。南極昭和基地のオゾンゾンデ観測結果より作成。

資料8 国内の日最大UVインデックス (2010年)



資料8-1：国内の日最大UVインデックスの年変化 (2010年)

●印は国内3地点（札幌、つくば、那覇）における日最大UVインデックス。実線は日最大UVインデックスの累年平均値（1994～2008年）。点線は資料8-2の階級別出現日数で使用する階級の区切り。



資料8-2：国内の日最大UVインデックスの階級別出現日数 (2010年)

国内3地点（札幌、つくば、那覇）における日最大UVインデックスの階級別出現日数を月別に示す。台風、障害等による欠測を除いている。